

保護者配付資料

平成29年度

全国学力・学習状況調査結果

平成29年4月18日実施



我孫子市立並木小学校

○小学校国語＜H29 並木小学校＞

- 国語A(主として知識)について、児童の平均正答率が県75%、全国74.8%を上回っている。俳句の情景を捉えたり、ことわざの意味を理解して自分の表現に用いたりすることができる児童が多く、言語についての知識・理解が優れている。
- 国語B(主として活用)について、児童の平均正答率が県57%、全国57.5%を上回っている。話す・聞く能力が優れている。目的や意図に応じて、文章全体の構成を考慮することができる児童が多い。

○課題等

話すこと・聞くこと

- ◇(A) 互いの話を聞き、考えの共通点や相違点を整理しながら、進行に沿って話し合えることができる児童が多い。
- ◇(B) 話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさをとらえることができる児童が多い。

書くこと

- ◆(A) 手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題がある。
- ◇(B) 目的や意図に応じて、文章全体の構成を考慮することができる児童が多い。
- ◆(B) 目的や意図に応じ、説得力をもって自分の考えを伝えるために、本や文章などから必要な語句や文を引用することに課題がある。

読むこと

- ◇(A) 俳句の情景や表現の特徴を捉えて読むことができる児童が多い。
- ◆(B) 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えることに課題がある。
- ◇(B) 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることができる児童が多い。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ◇(A) ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができる児童が多い。
- ◇(A) 古文における言葉の響きやリズムを楽しみながら、読むことができる児童が多い。
- ◇(A) 学年別配当表に示されている漢字を正しく読んだり、書いたりすることができる児童が多い。

◇…相当数の児童ができていない点 ◆…課題のある点 () の記号は、A=国語A、B=国語B

○小学校算数＜H29 並木小学校＞

- 算数A(主として知識)について、本校の平均正答率が県77%、全国78.6%をやや下回っている。加法と乗法の混合した計算の順番のきまりや最小公倍数の求め方の理解の正答率が低く、「数と計算」の領域の技能に課題がある。
- 算数B(主として活用)について、児童の平均正答率が県46%、全国45.9%をやや上回っている。「量と測定」の領域の理解ができている児童が多い。一方で「数と計算」の領域で示された条件を基に立式したり、図に表現したりすることに課題がある。また、示された資料を基に自分の考えを記述することに課題がある。

○課題等

数と計算

- ◆ (A) 整数の乗法の計算をすることに課題がある。
- ◆ (A) 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることに課題がある。
- ◇ (A) 商を分数で表すことができる児童が多い。(5÷9など)
- ◆ (A) 2つの数の最小公倍数を求めることに課題がある。

量と測定

- ◆ (A) 重さ、長さについて任意単位による測定についての理解に課題がある。
- ◇ (B) 飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することができる児童が多い。
- ◇ (B) 仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できる児童が多い。

図形

- ◇ (A) 正五角形は、5つの合同な二等辺三角形で構成できることを理解している児童が多い。

数量関係

- ◇ (A) 資料を二次元表に分類整理することができる児童が多い。
- ◆ (A) 資料から二次元表の合計欄に入る数を求めることに課題がある。
- ◇ (B) 示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述することができる児童が多い。
- ◆ (B) 割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことに課題がある。
- ◆ (B) 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量を判断し、その判断の理由を記述することに課題がある。

※算数B(主として活用)の調査結果において、最後の設問から3問の無解答率が全国平均の約2倍の割合を示している。そのため、正答率も下がっているが、これは解答時間が足りなかったことが考えられる。このことは、質問紙「質問番号92:調査問題の解答時間は十分でしたか(算数B)」の回答結果からもうかがえる。そのため、最後の設問(図形と数量関係の領域)の正答率が極端に低いことに関しては、慎重な判断が必要である。

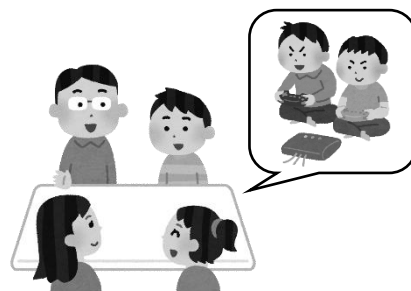
◇…相当数の児童ができている点 ◆…課題のある点 ()の記号は、A=算数A、B=算数B

児童質問紙から見えてくる並木っ子児童像

平成29年4月18日実施

基本的な生活習慣

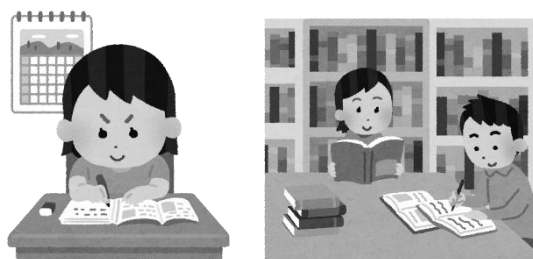
ほぼすべての児童が毎日、朝食を食べていたり、寝る時間を決めていたりして、基本的な生活習慣を身に付けている。また、家族での会話も多く、テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを決めている家庭が多い。



家庭学習の習慣(学習時間等)

依然として、本校の児童は全国の児童と比べ、家庭で勉強している時間がとても少ないことがわかる。宿題には取り組むが、授業の予習や復習をする児童は、全国平均に比べてとても少ない。どのように復習を行えばよいのか、具体的に指導する必要がある。家庭学習については、引き続き子どもへの指導、保護者への啓発を行っていくと同時にがんばっている子を認める声かけなど、評価も行っていく必要がある。

学校の図書室や地域の図書館によく行っている様子が見え、読書の習慣が身につけていて、読書好きな児童が多いことがわかる。



主体的・対話的で深い学びの視点による学習の取組状況

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために授業改善に取り組んできた結果、自分の考えを伝えることはやや苦手であるが、友達の考えを最後まで聞くことができるようになってきた。しかし、そこから自分の考えを深めたり、広げたりすることには、課題がある。「対話的な学び」の充実に向け、校内研究を進めていきたい。

学習と日常生活を関連付けた学習課題の工夫や社会への関心を持たせる声かけを意図的に行ってきたことで、学習したことを生活に生かそうという意識が高くなってきた。また、「総合的な学習の時間」では、自ら課題を見つけ、課題解決に取り組む探究の過程を大切に全校で指導に取り組んできた成果が見られる。

教職員は、子どもたち一人一人を大切にそのよさを認める声かけを行っている。また、学習においてもきめ細かな指導が行われていることが子どもたちの回答からわかる。今後も引き続き、全校体制で行っていきたい。



挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感 等

前回, 前々回の調査と比べ, 困難なことに挑戦したり, ものごとを最後までやり遂げたりして, 達成感を感じる経験をしている児童が多くなっている。また, 自己肯定感の高い児童が多い。これは, 他の質問での回答からもわかるように家族との会話が多いこと, 友達と気持ちを伝え合っていること, 先生からよさを認められていることで自分に自信を持つことができていると考えられる。



学校生活

全体として, 並木っ子が楽しい学校生活を送れていることがわかる。学級みんなで協力して何かをやり遂げ, うれしかった経験があると回答した児童が昨年度より増え, 学校行事等を生かした取組が実を結んでいると考えられる。一方, 話し合いで異なる意見を尊重したり, 折り合いをつけたりすることが苦手な様子もうかがえる。今後も Q-U 検査等の結果を参考にしながら, 一人一人を大切にしながら学級経営を充実させていきたい。



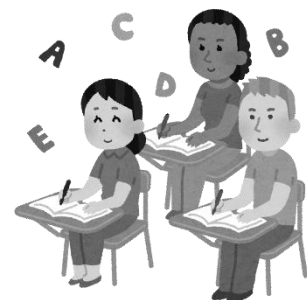
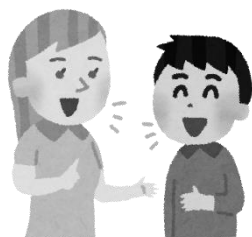
地域や社会に対する興味・関心

児童の実態を踏まえ, 意図的に社会で起こっているニュースに目を向けさせたり, 教科の学習との関連を図るようにしたりしてきた。そのため, 社会への関心は高まってきている。社会で起きていることについての情報は, 新聞よりもテレビやインターネットから収集していることがわかる。教科の学習に新聞を活用する場面を意図的に設定するなどの工夫もしていきたい。



外国に対する興味・関心

26年度で外国語活動の教育課程特例校としての取組は終了したが, その後も英語活動の取組を大切にしながら, 授業を実践してきた成果が見られ, 外国に対する興味や関心が高い結果となった。新学習指導要領では, 高学年で外国語活動が教科となり, 中学年でも外国語活動が位置づけられていく。今後もALTとの打ち合わせを大切にしながら計画的に授業を実践し, 並木 English のよさを継承していきたい。



並木っ子の主体的に学ぶ力を伸ばすために3



～家庭で できること～



気持ちのよいあいさつで 1日をスタートさせましょう！

みなさんのご家庭は、家族同士での「おはよう！」で一日をスタートさせていますか？並木小では、生活委員会の子どもたちが並木門、つくし野門に立ち、登校する並木っ子に「おはよう！」と声をかけています。少しずつ、あいさつを返してくれる子どもたちが増えていきます。

21世紀の社会に求められる人材には、コミュニケーション力が欠かせません。あいさつはコミュニケーションの第一歩です。声に出すからこそ、思いが伝わります。朝、起きたら「おはよう」の挨拶を！そして、登校するお子さんを「いってらっしゃい」と元気に送り出してあげてください。家族同士のあいさつが習慣となっている子どもは、気持ちも安定しています。子どもに友だちづきあいを覚えさせるには、まずあいさつをする習慣を身に付けさせることが大切です。元気にあいさつができると、友だちも増えます。友だちが増えるといろいろな情報が入り、学習にも結びつきます。あいさつが交わされる地域は、犯罪も少ないと聞きます。気持ちのよいあいさつが響く学校、家庭、地域をみんなで作っていきましょう。



子どもが発言する場をつくりましょう！自分の言葉で伝えさせることが大切！

今回の学習状況調査の結果、並木っ子が楽しい学校生活を送っていることがわかりました。また、友だちの話にしっかりと耳を傾けたり、困っている友だちを助けたりできる子どもが増えていくこともわかりました。しかし、一方で自分の考えを伝えることが苦手であると感じている子どもがやや多いという課題も見られました。そのため、自分とは異なる考えを持つ友だちとうまく折り合いをつけられないことがあるようです。

「先生、ノート…」など、単語だけしか発しない子どもがいます。きっと家庭の中では、単語だけでも通じてしまい、おうちの方も特に聞き返すことをしないのでしょうか。ぜひ、子どもが何を伝えようとしているのか、最後まで言わせ、最後まで聞いてあげてください。単語だけで通じるようにしてしまえば、子どものコミュニケーション能力は育ちません。会話のできない人になってしまいます。そして、親も「早く！」「宿題は？」と単語だけをぶつけないようにしていきたいですね。さらに家庭の中だけでなく、外出した際にも子どもに質問をさせる機会をつくってあげてください。例えば、デパートなどであえて「トイレはどこですか」と子どもに聞かせてみましょう。「トイレ…」だけでは、相手に伝わらないことに気づくでしょう。学校でも子どもたちの話に最後まで耳を傾けたいと思います。また、忘れ物をしたり、失敗したりした時も、ごまかしたりせずしっかりと自分の言葉で伝えられる子どもを育てていきたいと思っています。



手紙やはがきを 書く経験をさせましょう！

パソコンや携帯電話の普及で、手紙を書くことが少なくなっているようです。しかし、社会人になったら、依頼状や案内状、礼状などの実用的な文章としての手紙を書くことが求められるようになります。今回の国語の学力検査に「手紙の構成を理解し、後付けを書くこと」をねらいとした設問がありましたが、全国平均と比べ課題の残る結果でした。しかし、大人でも、いざ改まった手紙を書こうとしたら、自信がなくて時候の挨拶や手紙の形式を本やインターネットで調べるのではないのでしょうか。今(9月現在)並木小の3年生のろう下には、国語で学習した手紙が掲示されています。立派な時候の挨拶が書かれていて、びっくりしました。国語では、1年生から発達段階に応じて手紙を書く学習があります。しかし、学習したことが授業の中だけで終わったのでは、定着しません。なかなか、手紙を書く機会はないかもしれませんが、まず、年賀状や暑中見舞いを書くことから始めてみては、いかがでしょうか。返事をもらった時にも、メールとは違った嬉しさがあるのではないのでしょうか。



机に向かってする勉強だけが 勉強ではありません！

普段の生活の中で、遊びの中で、学べることはたくさんあります。生きることは、すべてが勉強です。たとえば、ガラスのコップに冷たい水を入れたら、コップの外側に水滴がつきますよね。「どうして濡れているんだろう？ガラスから水がしみ出したわけじゃないよね？」と問いかければ、理科の勉強に。ニュースを見ていて、地名が出てきたら「どこにあるんだろう？」「首都はどこかな？」など、地図や地球儀を見ながら会話をすれば、社会の勉強に。校外学習のおやつのお買い物に出かけて、「300円で何が買えるかな？」と考えさせれば、算数の勉強に。普段の生活の中で、子どもが興味を示したことにすかさず反応して、そこを掘り下げてみましょう。そうやって、少し踏み込んでみることで、子どもの知識、好奇心はどんどん広がっていきます。その際、親が教えてあげなければ…と難しく考える必要はありません。一緒に驚き、不思議がったり、調べたりして、親も学んでいく姿を見せると効果的です。

学校で長さや重さ、時間など、日常的に使われている単位の学習をしますが、実際の長さや重さ、時間の長さを実感するには、机に向かって学習しているだけでは無理です。実際に長さや重さを測ったり、「今から10分後に集合！」など時間を体感させたりすることが大切です。ご家庭でも食卓で「1L って、どのくらい？」「牛乳パックに 1000mL って書いてあるけど…」、散歩をしながら「学校まで何m？」など、楽しく会話をしながら、興味を広げていくとよいですね。



家庭学習の習慣を身に付けましょう！ (最初は、5分から！)

宿題には、一生懸命取り組む並木っ子ですが、今回の調査でも、宿題以外の家庭学習(予習や復習)に取り組んでいる児童の割合は、全国平均を大きく下回りました。何をやったらよいのか、イメージできないのかもしれませんが、学校でも具体的にどんな学習をするとよいのか、指導していきたいと思しますので、引き続き、ご家庭でのご協力をお願いいたします。

よく、毎日の家庭学習の時間は「学年×10分」と言われています。しかし、勉強は「どれくらい集中したか」が大切です。勉強する習慣を身に付けさせるには、時間の長さにとらわらず、最初は「5分やってみよう！」または、「計算問題5問やってみよう！」などと課題を決めて取り組ませてみましょう。ただ、「勉強しなさい！」と言うより効果的です。やる気のでる声かけをしながら、少しずつ、時間をのばしていきましょう。

